

事務事業評価シート 平成 30 年度事後評価・決算

令和 2 年 2 月 21 日時点

事務事業名		4100	交通安全対策事務費	予算科目	会計	款	項	目	所管課	市民生活課	担当班	市民生活支援班
①		(交通安全運動の推進)(交通安全教室等の実施)		根拠法令	一般	2	1	9			☒	主な事業
31		交通安全対策の強化		戦略事業	267	交通安全運動の推進					☒	国土強靱化地域計画
62		交通安全活動の充実		戦略事業	268	交通安全教室等の実施					☒	新市建設計画
62		交通安全活動の充実		戦略事業	268	交通安全教室等の実施					☒	定住自立圏構想
				戦略事業	268	交通安全教室等の実施					☒	主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	①春、夏、秋、冬等の各種交通安全運動へ参加及び街頭やイベントにおいて交通安全の啓発活動を実施。 ②小中学校、保育所等の児童・生徒や高齢者を対象とした交通安全教室を実施。 ③小学生に対して、街頭で交通誘導及び交通指導を実施。 ④市イベント・学校行事・地区行事等へ交通指導員の協力申請があった場合の指導員派遣を実施。 ⑤交通安全啓発看板等の設置・管理。	
③事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④事務事業に関する課題・環境の変化	⑤事務事業に対する住民からの意見等
昭和45年6月「交通安全対策基本法」の制定から交通事故撲滅も目指す、国の政策に併せて、旭市においても事故防止の啓発を行ってきた。また、幼児や児童、高齢者の交通弱者を守るため交通安全教室を開始した。	少子高齢社会と車社会の進展の中で高齢者が車社会に十分適応できない。今後、更に高齢者人口の増加が予想されることから、特に高齢者の事故防止対策が必要である。	カーブミラーの調整や清掃、赤色回転灯の修繕、電柱幕や横断旗の設置要望等がある。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(30年度の決算)		単位:千円
1.報酬	5,773	交通安全指導員報酬
2.消耗品費	444	啓発品や教室用チラシ、啓発電柱幕等購入費
3.委託料	1,950	児童交通安全街頭指導委託料
4.補助金	1,463	旭交通安全協会補助金等
5.その他	877	修繕費・被服購入費等
② 特定財源の内訳(30年度の決算)		単位:千円
1.国庫支出金	0	
2.都道府県支出金	0	
3.地方債	0	
4.その他	0	

事業費	費目内訳	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(予算)
	1.報酬	千円	5,846	5,851	5,806	5,773	6,069
	2.消耗品費	千円	376	556	492	444	518
	3.委託料	千円	1,988	1,997	1,961	1,950	2,297
	4.補助金	千円	1,222	1,331	1,457	1,463	1,624
	5.その他	千円	983	1,046	705	877	1,253
	事業費計(A)	千円	10,415	10,781	10,421	10,507	11,761
財源	1.国庫支出金	千円					
	2.都道府県支出金	千円					
	3.地方債	千円					
	4.その他	千円					
	5.一般財源	千円	10,415	10,781	10,421	10,507	11,761

前年度増減理由	赤色回転灯、交通指導車修繕料の増。
---------	-------------------

従事職員数 常時 1 人 最大 人 × 日 = 延べ 0 人

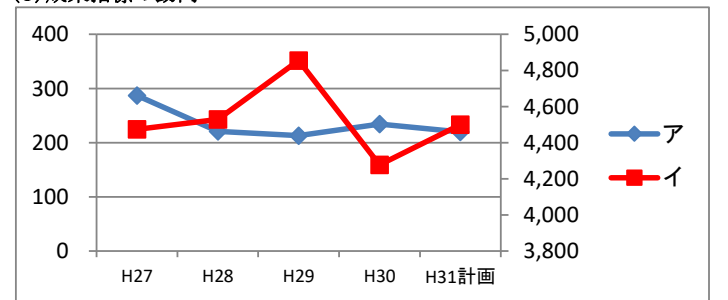
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

① 主な活動	③ 活動指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
30年度実績(30年度に行った主な活動)							
交通安全の啓発活動実施	ア 安全教室の回数	回	105	105	113	96	105
交通安全教室の実施	イ 街頭指導員が活動を実施した延べ日数	日	1,807	1,815	1,783	1,773	2,088
街頭で交通誘導及び交通指導を実施							
② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
対象 市民	ア 交通事故死傷者数(1月～12月)	件	287	221	213	234	220
意図 交通事故を起こさないようにする。							
対象 市民	イ 交通安全教室参加者数	人	4,473	4,528	4,855	4,277	4,500
意図 事故にあわないための知識を得る。							

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい		②	
	普通			
	小さい			
② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①			
	②			
	③			
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	☒ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標のタイプ ☒ 数値減＝成果向上 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下 成果指標イ ☒ 数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下
【コメント】(低下の場合、その理由)	高齢者の交通事故増加。29年度は重点的に高齢者を対象とした交通安全教室を実施(17回、延べ434人)
③ 今年度取組事項(31年度に取り組む主な事項について記載)	時期 内容 今後 拡大 ☐ 縮小 ☐ 現状維持 ☒ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他() 高年齢者を対象とした講座の開催。交通安全啓発活動の強化。自主返納の促進。高年齢者の交通安全対策の強化